

「美しい国づくりのための みちしるべ」（仮称）の作成



環境研究部 緑化生態研究室 主任研究官 小栗 ひとみ 研究官 曽根 直幸 室長 栗原 正夫

（キーワード） 公共事業、景観創出、まちづくり、みちしるべ、効果

4.

1. 「みちしるべ」作成の経緯

公共事業の景観創出にあたっては、施設の装飾や修景に完結するのではなく、景観創出を通して、周辺地域のまちづくりに効果を及ぼすことが求められている。ところが、現状では、公共事業において景観創出に取り組む際、地域とどのように向き合えばよいのか、地域のまちづくりにどのような効果を及ぼすことができるのか、また、それを引き出すためには、いつ、どのような取り組みを進めればよいのかなど、まさに実務の現場で役立つ情報が、十分に整理されているとは言い難い状況にある。

そこで、公共事業による景観創出と地域の景観形成が連携した美しいまちづくりの実現に向けて、公共事業の現場技術者等が地域のまちづくりに効果を及ぼすことを意識した景観整備を進めるための知見や情報を、「美しい国づくりのためのみちしるべ（仮称）～公共事業における景観配慮を地域のまちづくりに結びつけるために～」としてとりまとめた。

2. 「みちしるべ」の概要

「みちしるべ」の構成は、図-1のとおりである。まず1章において、公共事業の景観創出が地域に与える効果を考えることの意味をわかりやすく説明した後、2章では景観創出が生み出す様々な効果を、また3章では効果を生むための取り組み手法とそのポイントを、それぞれ例示を交えながら解説している。2章および3章の「みちしるべシート」では、先進的な景観創出事例から抽出・整理された31の効果と17の手法それぞれについて、具体的な内容や事例、効果と手法の関係をビジュアルな資料を用いて整理し、効果の把握方法についても解説を加えた。

3. 成果の公表

「みちしるべ」は、国総研資料として公表予定である。（<http://www.nilim.go.jp/lab/ddg/seika/>）

「みちしるべ」が公共事業による景観創出と地域の景観形成が連携した美しいまちづくりの一助となることを期待する。

「美しい国づくりのためのみちしるべ」（仮称）全体構成

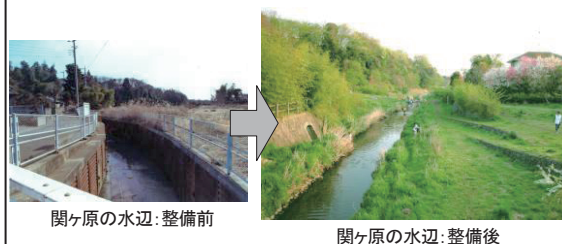
- 1 「みちしるべ」のねらい ～なぜ「まちづくり効果」なのか
 - (1) 「みちしるべ」の位置づけ
 - (2) 効果を考えることの意味
 - (3) 「みちしるべ」の使い方
 - (4) みちしるべシートについて
- 2 まちづくりにおよぼす効果 ～どんな効果が生まれるのか
 - (1) 効果の種類
 - (2) 効果の相互関係
 - (3) 効果の把握方法
 - (4) 効果からみたみちしるべシート
- 3 効果発現のための手法 ～どうすれば効果が生まれるのか
 - (1) 手法の種類
 - (2) 手法と効果との関係
 - (3) 手法と事業段階との関係
 - (4) 手法からみたみちしるべシート

図ー1 「みちしるべ」の全体構成

1. 地域景観の向上

【効果発現の事例】

・地域景観の向上は公共事業における景観配慮が直接的に現れる効果であり、景観の向上はその後続く様々なまちづくり効果を発現する源になる。



《効果の発現に関わりの強い手法》

⇒取組み手法A：事業のまちづくりにおける意味を考える
⇒取組み手法D：制約を取り払ってみる
⇒取組み手法H：本当に大切なものは何かをみんなで決める

図ー2 「効果」の一例